

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ
Quarterly magazine FOYER
2025 Summer

025

FOYER

つながる、ひろがる、あつまる

ほわいえ

Special feature

シアターアジア オープニングシンポジウム

アートがつなぐ熊本とアジア

Special feature けんげきッズプログラム

九響 0歳からの
オーケストラ

国内外で活躍する熊本のアーティストがここに集結

ふるさとの宝を!
コンサートVol.8
～復興から未来へ～

2025年7月20日(日) 13:00開場 13:30開演 16:00終演予定
熊本県立劇場コンサートホール (全席自由) 一般 2,000円 / 大学生以下 1,000円
※大変恐れ入りますが未就学児のご入場はご遠慮ください

プレイガイド
熊本県立劇場
熊日プレイガイド
大谷楽器

【主催】ふるさとの宝を! コンサート実行委員会 【ご予約・お問合せ】B・Mプロデュース:090-4343-3105 (春日)

熊本県立劇場
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】
公益財団法人 熊本県立劇場
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】
株式会社 ジャム
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2025 Summer 発行日:2025.6.20 ※掲載内容は5.31現在のものです。

Special feature シアターアジアオープニングシンポジウム

アートがつなぐ熊本とアジア ―熊本からアジアへ、アジアから熊本へ―

文化芸術のサプライチェーンのハブとして 熊本のアドバンテージが見えてきた

熊本県立劇場がゲートウェイとなり、文化芸術でアジアをつなぐ「シアターアジア事業」の構想。2025年度から本格スタートするシアターアジア事業について、その意義と展望を識者と語り合うオープニングシンポジウムを開催しました。今回の特集では、シンポジウムで語られた内容についてレポートします。

2025年5月25日(日)
熊本県立劇場 演劇ホール

第1部：講演
「シアターアジアとはーアジアという広場に集う」
姜 尚中(熊本県立劇場 館長)

第2部：シンポジウム
「シアターアジアを通して見えるクマモトの未来」
石田 麻子(昭和音楽大学 教授)
木村 敬(熊本県知事)
姜 尚中(熊本県立劇場 館長)



第2部の模様。左から姜館長、木村知事、石田教授

アジアと熊本、そして劇場の 3つのキーワードで紐解く事業構想

オープニングシンポジウムの第1部では、熊本県立劇場の姜尚中館長が、9年の在任期間中にあためてきた「シアターアジア事業」の構想について、自らの思いとともに語りました。

この事業について、姜館長は就任直後から構想していました。熊本地震や人吉・球磨地域の豪雨、コロナ禍などが影響し、なかなか実動に至りませんでした。その後台湾の世界最大手の半導体企業・TSMCの進出などで急速にアジアとの交流が進むなか、改めて事業化に着手。今年度から本格的にスター

トを切ることになりました。「熊本はアジア圏の文化と経済のサプライチェーンとしてのハブとなる可能性を秘めている」。

姜館長は、グローバルizm変遷の歴史から見る現在のアジアや、熊本におけるTSMCの存在などを交えながら、幅広い視点で語りました。そして、リアルとバーチャルの境界がなくなりつつある今だからこそ、身体的な没入体験、人間的なふれあいの重要性、劇場を訪れるという能動的な出会い、そして若い世代にインパクトを与えるという点から「複製が不可能な実演芸

術だからこそ、今の時代に必要ないリアルな体験」を提供できる劇場が、この事業に取り組む意義を示しました。

シアターアジア事業の構想の核として、2国間、または多国籍での演劇共同制作、若手演劇人の育成、アーティスト・レジデンスなど、熊本発のアジア連携プロジェクトの実施を検討。さらには各国の伝統芸能との融合など、オンラインによる国際的な連携も視野に入れた事業展開を構想。「熊本、アジア、劇場」三位一体の構想として、その事業展開は文化芸術の交流にとどまらず、地域の誇りの創出

につなげていく考えがあります。その実現には、地域経済界や自治体における文化的な投資が必要不可欠であると訴えました。



©2010熊本県くまモン



その土地の光を観ることが、「観光」。
そして、光を放ち、
輝き続けているのが、「文化」。

木村 敬(熊本県知事)

国境を越えて交流する文化芸術と交差する視点 「シアターアジア」に期待すること

第2部では、文化政策研究者である昭和音楽大学の石田麻子教授、熊本県の木村敬知事が登壇し、美術館長がモデレーターを務め、それぞれの立場からシアターアジア事業の構想についてトークセッションが繰り広げられました。木村知事は、「文化芸術は嗜好品ではなく、地域の光であり、誇りである」と力強く語りました。「日本地図で見ると熊本は東京からは遠いが、世界地図で見るとアジアの真ん中に位置している」と、アジアにおける熊本の地理的な優位性に触れ、熊本がアジアとつながるアドバンテージを明確に示しました。世界の劇場運営に造詣が深い石田



私が劇場で感じたいのは、
舞台の熱量を受け止める観客の反応。
皆の熱い想いがシアターアジアの力になる。

石田 麻子(昭和音楽大学 教授)

教授からは、「アジアを射程とした文化構想が素晴らしい。アジア各国との関係性を築くには、この距離の近さに加えて、劇場、そして劇場のスタッフ、アーティ

ストといった視点で語ることが必要」と、シアターアジア事業について、人的要素の重要性を強調しました。

議論は、ヨーロッパにおける文化芸術活動まで広がり、劇場という概念が西洋型劇場のいわゆる「輸入」によってはじまっていることに言及。アジアにおいてもス

の魅力発信のために、県民と力を合わせていくことが理想的であると、登壇者の共通認識として挙げられました。

いよいよ本格スタートを切ったシアターアジア事業ですが、県立劇場は、2026年10月から長期間の改修工事に入り、2028年2月まで休館となります。それを受け、石田教授から「劇場がハブになるには、劇場のスタッフとアーティストの連携がとても重要。人こそが宝」というエールをいただきました。木村知事からは「文化芸術のつながりは、人のつながりを深め、やがてはアジアの平和に貢献できる」と期待が寄せられました。

文化芸術は地域社会のインフラであり、海外だけでなく、劇場のある「まち」でも改めて交流を深めていく決意でシンポジウムは締め括られ、シアターアジア事業は、その第一歩を力強く踏み出しました。

〈シアターアジア事業〉
県立劇場にて開催された5月31日の台湾フィルハーモニック熊本公演を皮切りに、シアターアジア事業が計画されています。詳細は県立劇場のホームページをご確認ください。

Special feature けんげきッズプログラム

九州交響楽団との新しい一歩

九響0歳からのオーケストラ

2025年2月、長年変わりがあった九州交響楽団と熊本県立劇場は「熊本の方々にもっとオーケストラに触れてもらいたい!」と思いが一一致し、包括連携協定を締結しました。県立劇場にとってはプロフェッショナルの実演団体と協定を締結するのは初めて、ま

た九州交響楽団にとっても福岡県外の団体と協定を締結するのは初めてです。

そして、4月19日、連携協定締結後第1弾として『九響0歳からのオーケストラ』公演を実施しました。当日はコンサートホールにおむつ替えスペースや授乳スペースを増設。ミルクコーナーや



小さなお客さまはタンバリンに興味津々

ベビーカー預かりスペースなども設け、小さなお客様たちをお迎えする準備が整いました。

開場後、ホワイエへ新緑の光が鮮やかに降り注ぐ中、どこからかタンバリンの音が。九響のパークッション奏者の2人がサプライズでウェルカムコンサートを始めると、あっという間に人だかりができました。その後も弦楽五重奏やテューバの演奏が続き、初めて楽器を見る子どもたちは目を輝かせながら間近で開演前の演奏を楽しみました。

コンサートが始まると、楽団員たちが手を振ってステージ上に登場しました。MCでは、指揮の喜古恵理香さんが軽快なトークとともに聴きどころなどを優しくレクチャー。「この公演は泣いてもOK、寝てもOK、



九響がぐっと身近に感じられた公演でした



サプライズのウェルカムコンサートでは子ども大人も笑顔に

熊本県立劇場施設使用料改定に関するお知らせ

熊本県立劇場の施設使用料は、熊本県が施行する熊本県立劇場条例に基づき2025年7月1日より改定となりますのでお知らせいたします。

これまで経費削減や収入増に取り組んでおりましたが、昨今の物価高騰の影響により、施設の維持管理費が増加しております。なお、対象となるのは施設使用料のみであり、附属設備使用料の改定はございません。

ご利用の皆様には何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

料金改定日 2025年7月1日(火)

- 事務処理
- 新規申し込み

①7/1以降の利用について6/30までに使用許可を受け付けた場合…旧料金

②7/1以降に使用許可を受け付けた場合…新料金

※施設利用料は、使用許可日をもって判断します。

●申し込み後の変更

①7/1以降の利用で施設使用料金に影響がある変更について、

6/30までに変更許可を受け付けた場合…旧料金

②7/1以降の利用で施設使用料金に影響がある変更について、

7/1以降に変更許可を受け付けた場合…新料金

※変更後の施設使用料は、変更許可日をもって判断します。

料金新旧対照表 (単位：円)

施設区分	入場料区分	使用日区分	午前 9：00～12：00		午後 13：00～17：00		夜間 18：00～22：00		午前・午後 9：00～17：00		午後・夜間 13：00～22：00		全日 9：00～22：00	
			旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新
コンサート ホール	0～ 1,000	平日	39,600	40,190	79,200	80,390	118,800	120,580	99,000	100,490	157,300	159,660	196,900	199,850
		土・日・祝日	47,300	48,010	94,600	96,020	143,000	145,150	118,800	120,580	190,300	193,150	237,600	241,160
	1,001～ 2,000	平日	59,400	60,290	118,800	120,580	177,100	179,760	147,400	149,610	236,500	240,050	294,800	299,220
		土・日・祝日	71,500	72,570	141,900	144,030	213,400	216,600	178,200	180,870	282,700	286,940	354,200	359,510
	2,001～ 3,000	平日	67,100	68,110	133,100	135,100	200,200	203,200	167,200	169,710	266,200	270,190	333,300	338,300
		土・日・祝日	80,300	81,500	159,500	161,890	239,800	243,400	200,200	203,200	319,000	323,790	399,300	405,290
	3,001～ 5,000	平日	73,700	74,810	147,400	149,610	222,200	225,530	184,800	187,570	297,000	301,460	370,700	376,260
		土・日・祝日	89,100	90,440	178,200	180,870	266,200	270,190	222,200	225,530	355,300	360,630	444,400	451,070
	5,001～	平日	79,200	80,390	158,400	160,780	237,600	241,160	198,000	200,970	316,800	321,550	396,000	401,940
		土・日・祝日	95,040	96,470	190,080	192,930	285,120	289,400	237,600	241,160	380,160	385,860	475,200	482,330
控 室（1室料金）			2,200	2,230	2,420	2,460	2,640	2,680	4,620	4,690	5,060	5,140	7,260	7,370
音楽リハーサル室（308㎡：B1F）			6,600	6,700	7,260	7,370	7,920	8,040	13,860	14,070	15,180	15,410	21,780	22,110
第1練習室（215㎡：2F）			4,400	4,470	4,840	4,910	5,280	5,360	9,240	9,380	10,120	10,270	14,520	14,740
第2練習室（162㎡：2F）			2,750	2,790	3,080	3,130	3,300	3,350	5,830	5,920	6,380	6,480	9,130	9,270
第3練習室（156㎡：1F）			2,750	2,790	3,080	3,130	3,300	3,350	5,830	5,920	6,380	6,480	9,130	9,270

施設区分	入場料区分	使用日区分	午前 9：00～12：00		午後 13：00～17：00		夜間 18：00～22：00		午前・午後 9：00～17：00		午後・夜間 13：00～22：00		全日 9：00～22：00	
			旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新
演劇 ホール	0～ 1,000	平日	34,100	34,610	67,100	68,110	100,100	101,600	83,600	84,850	133,100	135,100	167,200	169,710
		土・日・祝日	39,600	40,190	80,300	81,500	121,000	122,820	100,100	101,600	160,600	163,010	201,300	204,320
	1,001～ 2,000	平日	49,500	50,240	100,100	101,600	149,600	151,840	125,400	127,280	201,300	204,320	250,800	254,560
		土・日・祝日	60,500	61,410	119,900	121,700	180,400	183,110	149,600	151,840	239,800	243,400	300,300	304,800
	2,001～ 3,000	平日	57,200	58,060	112,200	113,880	169,400	171,940	141,900	144,030	225,500	228,880	281,600	285,820
		土・日・祝日	68,200	69,220	135,300	137,330	203,500	206,550	169,400	171,940	270,600	274,660	338,800	343,880
	3,001～ 5,000	平日	62,700	63,640	125,400	127,280	189,200	192,040	157,300	159,660	251,900	255,680	314,600	319,320
		土・日・祝日	74,800	75,920	151,800	154,080	226,600	230,000	189,200	192,040	302,500	307,040	377,300	382,960
	5,001～	平日	68,200	69,220	136,400	138,450	204,600	207,670	170,500	173,060	272,800	276,890	341,000	346,120
		土・日・祝日	81,840	83,070	163,680	166,140	245,520	249,200	204,600	207,670	327,360	332,270	409,200	415,340
楽 屋（1室料金）			2,200	2,230	2,420	2,460	2,640	2,680	4,620	4,690	5,060	5,140	7,260	7,370
演劇リハーサル室(253㎡：B1F)			6,600	6,700	7,260	7,370	7,920	8,040	13,860	14,070	15,180	15,410	21,780	22,110



加藤晴葉さんとネイビン・ニコラス・アカミネさん

4月7日、熊本から遠く離れた新潟県佐渡市の鼓童文化財団研修所に熊本から2人の研修生が入所しました。加藤晴葉さんとネイビン・ニコラス・アカミネ（ニック）さん。実は2人は2024年9月、第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ『ひこばえ』公演の参加者。『ひこばえ』は佐渡を拠点に世界中で活動続ける太鼓芸能集団鼓童と、熊本県内から参加した太鼓奏者たちがクリエイションを重ねて上演した1回限りの公演（季刊誌ほわいえ（28参照）。参加者たちはこの公演での経験を持ち帰り、今もそれぞれの場所で活動を続けています。加藤さんとニックさんの2人は公演終了後、鼓童の研修生に応募。書類選考と佐渡での太鼓の実技や面接等を経て見事合格し、研修生として新しい生活をスタートさせました。入所式を終え、翌日からは共同生活が始まります。太鼓や踊り、唄、茶道や能など日本の伝

統文化を学び、農作業や体づくりのトレーニングを通して表現の土台作りを行う1年目の生活。研修所での生活は厳密な時間管理が求められ、佐渡の豊かな自然の中で自分と太鼓にひたすら向き合う日々が続きます。入所式から1週間が経った4月15日。研修所のある柿野浦地区では、「鬼太鼓（おんどこ）」という五穀豊穡を願い、厄を払う伝統のお祭りが行われていました。地元の人や研修所2年目の先輩、そして鼓童メンバーたちが一堂に会し、柿野浦



第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ『ひこばえ』より

地区の家々の門前で鬼太鼓を披露します。2人は佐渡に来て1週間ですが、笛を演奏したり太鼓を担いで運んだり、地元の人ともすっかり打ち解けながら笑顔で祭りの運営に取り組んでいました。熊本県立劇場では熊本から佐渡へはばたいた2人の様子を今後もお伝えしたいと考えています。2人のこれからを熊本から応援していきましょう！



入所式の様子



熊本県立劇場がプロデュースした演目『肥後アマビエ戀歌異聞』



清和文楽館
熊本県上益城郡山都町大平152
電話:0967-82-3001

江戸時代の後期、嘉永年間に淡路の人形芝居一座から技術を習ったことがはじまりとされる人形浄瑠璃、清和文楽。農村のお宮の舞台で奉納芝居を上演するほか、各地の行事に招かれるなどし伝承されてきました。一時期衰退の危機があったものの、昭和天皇即位を機に復活。1979年に県重要無形文化財に指定されたことから、口伝で受け継がれてきた浄瑠璃の文化を後世に残すために、民俗資料館建設が検討されるようになりました。紆余曲折を経て、現地での上演を可能にする劇場機能を備えた清和文楽館が、1992年に開館しました。開館当初は太夫、三味線が地元になかったため、熊本県立劇場の鈴木健二館長(当時)が著作権を処理した浄瑠璃のテープを寄贈。このテープで2年間、人形浄瑠璃の上演を行っていました。現在では、淡路島で修行を積んだ専属の太夫と三味線が2名、人形遣いが1名在籍し、保存会とともに年間約180公演を行っています。学校教育との連携や海外公演、県立劇場とタッグを組んだオリジナル作品づくりにも取り組み、近年では漫画『ONE PIECE』を題材にした作品が話題を呼んでいます。

個性光る県内の公共ホールをご紹介します

清和文楽館(山都町)



清和文楽館
トップページ

利用団体公演レポート

熊本ウインドシンフォニー 第6回定期演奏会

2025年5月6日(火・休) 熊本県立劇場 コンサートホール



コミカルな演出で盛り上がった「東京ブギウギ」

熊本地震直後の2016年5月に創設された吹奏楽団「熊本ウインドシンフォニー」の第6回定期演奏会が、ゴールデンウィーク最終日に開催されました。公演の終盤、賛助メンバーを含めた約60名の団員が、今年から揃えたという爽やかなスカイブルーのTシャツを身にまとい、観客との一体感あふれる演奏を繰り広げました。

今回は、ユーフォニアム奏者であり、指揮者として後進の指導にも携わる福田昌範さんを客演指揮者に迎え、3部構成でプログラムが進行。団員にとって「聖地」でもある熊本県立劇場での定期演奏会は、2022年から数えて4回目の開催となります。第3部の演出を任されたパーカッション担当の山田鈴蘭さんは「真面目なようで、ちょっとふざけたところが魅力の楽団です。今回は舞台の装飾、衣装も手づくりで、本番ではちょっとしたハプニング



打楽器セクションリーダーの山田鈴蘭さん。「コントラバスとバスドラネットが足りないので経験者を熱烈に募集しています」とのこと

がありました。が楽しく乗り切れました」と公演を振り返ります。その言葉通り、客席まで使った大胆な演出が観客を巻き込み、楽しいひとときとなりました。

団員の多くが社会人で、練習は基本的に週1回。年間8〜10回のペースで地域の文化祭やスクールコンサートに出向いて活動する一方で、創設以来吹奏楽コンクールにも積極的に出場しています。10代から60代の幅広い年代の団員が在籍する中で、10代から30代が約8割を占め、楽団を盛り上げる役割を担っています。「吹奏楽コンクールの九州大会金賞をめざしています。団員を絶賛募集中です」と、山田さんは締めくくりました。



常任指揮者の山崎栄之進さん。
会場のアンコールに応じて
軽やかにタクトを振った

県劇リコメンド

ヨーロッパの蚤の市で見つけたかわいい文具・雑貨 ミドリネコ舎

県劇職員のおすすめを紹介する「県劇リコメンド」。今回は熊本高校の裏手にある文具・雑貨のお店「ミドリネコ舎」をご紹介します。

店内には店主がヨーロッパの蚤の市で見つけたかわいい文具・雑貨が所狭しと並んでいます。「かわいい」というお客さんの声に他のお客さんも反応して盛り上がることも。ひきだしを開けるとそこにも雑貨が隠されていて、慣れてきたら宝探し感覚でお店を楽しむのもグッド！毎年恒例の「ヨーロッパの手仕事展」や「天草ボタン展」をはじめ、県内外の様々な作家さんのポップアップイベントやワークショップ



など不定期で開催されており、イベントを目がけて来店するのもおすすめです。県劇とも縁がある作家のキタカゼパンチさんやコダヨコさんの企画展も。お誕生日やなんでもない日のプレゼントにどうぞ。



ミドリネコ舎(みどりねこしゃ)
熊本市中央区新大江1-17-10 K2ビル1F
県劇から徒歩15分程度
096-342-8657
営業時間/10:00~19:00
(金曜日は12:00~19:00)
定休日/火曜日
その他、外部イベントなどでお休みの時は
インスタやHPでお知らせ



Instagram



HP



1982年制作 220×120×120cm(台座含む) ステンレス・スティール

立方体を ななめに通りぬける 円筒（堀内正和 作）

熊本県立劇場の館内に多数展示されているアート作品をご紹介します「県立劇場ギャラリー」。モール（廊下）脇にある「光庭」に置かれた不思議な彫刻は、京都生まれの堀内正和（1911～2001）の作品です。設計図を描いて工房に発注する発注芸術の先駆者ですが、まずマケット（紙模型）を制作し、立方体からバリエーションを創り出し、気に入った造形を設計図に起こすのが特徴です。知的でユーモアに富んだ作品を、時間によって差し込む光が異なる光庭で、ぜひゆっくりとご鑑賞ください。

県立劇場ギャラリー



我が家にはラグドールとキジトラ猫の猫2匹、そしてジャーマン・シェパードが同居している。ホワイトのセミロングヘアが印象的なラグドールは、顔がポインテッドの薄茶色で、とてもキュートで、愛らしく、それでいてどこか神々しいところがあり、聖書のルカの福音に因んで「ルーク」と名づけた。キジトラ猫の「チョコラ」は、その名の通り、可愛らしく、人懐っこい猫だ。飼育放棄で捨てられたチョコラは、発見された時、寒さで震えていたそうだ。2人、いや2匹が相思相愛になつてくれればという願いも虚しく、もう8年近くになるのに、2匹の間には「冷戦」状態が続き、時折り、激しい取っ組み合いを演じながら、それぞれの領分を守った「冷たい平和」が続いている。

それでも、「犬猿の仲」のルークとチョコラだが、思ってもみないことで、意気投合することがあるようだ。たまさか、NHKの「岩合光昭の世界ネコ歩き」の番組で、イスタンブールの路地に我が物顔で屯するネコたちが、画面に大きく映し出されるや、それを見たルークとチョコラがフリーズしたようにじつと突っ立ったまま、お互いの顔を寄せ合つて見入っていることがあったのだ。まるでお互いの顔を合せて、何事かそれぞれの感動を交換し合っているようにも見えた。

そう思ったのも、日本の動物学の大家の日高敏隆先生の奥様から頼まれて、エッセイのようなものを書いたからだ。日高先生の訳になる、動物行動学の泰斗、ヤーコブ・フォン・ユクス

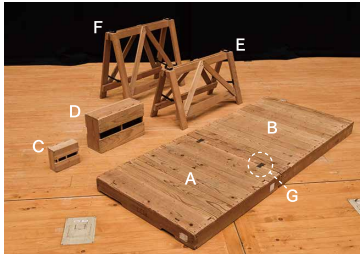
館長室から

姜尚中



（左から）高さ4寸の平台と…
1段目：箱馬（3寸）で高さ7寸、2段目：箱馬（1尺）で高さ1尺4寸
3段目：中足で高さ2尺1寸、4段目：高足で高さ2尺8寸の
ひな段が完成！

※1寸＝3.03cm）、10寸＝1尺（30.0cm）、6尺＝1間（181.8cm）



A: 平台（3尺×3尺 さんさん）、B: 平台（2尺×4尺 さんよん）
C: 箱馬（3寸×6寸×7寸）、D: 箱馬（5寸×1尺×1尺6寸）
E: 開き足（中足）、F: 開き足（高足）、G: つかみ

の姿図と、これらを組合せて作ったひな壇です。1・2段目は箱馬と、3・4段目は高さの異なる2種類の開き足との組合せです。また、「つかみ」という金具で複数の平台を相掛け・連結させると、高さだけでなく幅や長さもサイズアップできます。お芝居のセットとしてはもちろん、演奏会のひな壇として使ったり、舞台の上で客席として使ったり、組み方次第で多くの役割を担う代表的な大道具です。館内の『光庭文庫』で、その実物をご覧になれます。劇場にいらした際は、ぜひお立ち寄りください。

■舞台さんのお仕事道具

平台（ひらだい）

舞台空間を創りだす、頼りになる大道具。

平台は江戸時代に歌舞伎で誕生し、今もなお使われ続ける大道具です。木製の平らかな台で、サイズは江戸由来の長さの単位である寸・尺・間（けん）※で表します。そのため、幅3尺×長さ6尺の平台は「さんろく／さぶろく（3尺×6尺）」のように尺の値で呼ばれます。

平台は主に舞台床よりも高い舞台面（段）が欲しいときに使われ、さらに「箱馬（はこま）」や「開き足（ひらきあし）」と組合せることで、段の高さも変えられます。写真（上）は平台・開き足・箱馬

■県劇職員が本音を綴るレレーニラム

舞台技術グループ
垂水 健治「たるみずけんじ」

それでも

劇場が好き

1991年、妻の郷里である宮崎へ移住。心優しき変人と出会い、その縁でアングラ劇団の舞台監督へと…。そして、妹尾河童さんが講演で来県。建設中だった県の劇場にもふれられ、そこで仕事したいと願っていたら実現。これがぼくの劇場ことはじめです。

宮崎県立芸術劇場は、1993年開館。その準備期間中、1982年開館の熊本県立劇場で2週間、研修をしました。当時、鈴木健二館長のもと劇場はとても輝いていました。ここで劇場人の基礎を学び、宮崎で8年間修業しました。次の局面は、北九州市の劇場計画へ尊敬する先達がぼくを推薦。小倉に単身赴任しました。始めの2年間は開設準備で、市・設計・劇場コンサル・施工の担当者とは喧々諤々のやり取り。何しろみなさん、よい劇場を建てるんだと熱い方々ばかり。2003年

の北九州芸術劇場開館後はいろいろな役割を与えられ、成果を出せたか心許ないです。12年後お役御免、新たな場探しです。

そして2015年、福岡市の計画する新文化拠点への参画が決まり、福岡市へ。待ち受けていたのは市の方針変更。劇場を持たない財団で事業を行う、残念な3年間でした。

でも、拾う神あり。2016年開館、久留米シティアラザです。オペラ形式のコンサートホール、伝統芸能に調和する中劇場、ブラックボックス式小劇場など、機能を分けた魅力的な演出空間。彼のまちへ転居したら、劇場運営が問題化。コロナ禍も含め7年間苦悶、そして定年。

劇場ジプシーの幕引きかな、24年間の単身赴任生活もおしまい…。すると憩意の劇場コンサルから紹介され、この度熊本へ。各地の城下町での単身赴任生活も26年目。1980年代、2010年代、九州の県・政令市・中核市に出来た拠点劇場での仕事に恵まれ、それでも劇場が好き、なまじういます。